

病理

1. 学会発表

1)完全房室ブロックの2剖検例.

第96回日本病理学会総会，平成19年3月15日（大阪府）

秋田大学医学部法医学講座

西田尚樹，千葉孝

八戸市立市民病院臨床検査科

板橋智映子，方山揚誠

大館市立総合病院臨床検査科

黒滝日出一

2)リンパ節の細胞診 捺印法（タッチ）と擦過法（サッカ）の比較.

第24回日本臨床細胞学会青森地方会，平成19年3月24日（青森市）

青森市民病院臨床病理科

吉岡治彦，長谷川多紀子，斎藤昌彦，福田宏志，八木橋法登

大館市立総合病院臨床検査科

黒滝日出一

3)リンパ節の細胞診 Reactive lymphoid hyperplasia(RLH)の2例.

第24回日本臨床細胞学会青森地方会，平成19年3月24日（青森市）

青森市民病院臨床病理科

吉岡治彦，長谷川多紀子，斎藤昌彦，福田宏志，八木橋法登

大館市立総合病院臨床検査科

黒滝日出一

4) 副鼻腔腫瘍の1例

第24回北日本病理研究会，平成19年6月2日（弘前市）

大館市立総合病院臨床検査科

八木橋 祐弥，丸岡 智史，市川 聡，黒滝 日出一

大館市立総合病院耳鼻咽喉科

高畑 淳子，蒔苗 公利

弘前大学医学部耳鼻咽喉科

丸屋 信一郎

青森市民病院臨床病理科

八木橋 法登

症 例：81歳，男性

現病歴：3～4ヶ月前から顔面の変形，右耳の違和感（聴力低下と痛み）に気付いていた．右眼の痛みと複視を自覚し，市内眼科受診し，脳外科受診を勧められた．市内脳外科受診し，右外転神経麻痺を認め，頭部MRIにて鼻腔を中心とした腫瘍が認められた．右上顎癌を疑われ，精査・治療のため当院耳鼻科に紹介となる．CT等の所見から篩骨洞・蝶形洞を中心とした腫瘍で頭蓋内に一部浸潤し骨破壊を伴っていた．副鼻腔ならびに上咽頭へ突出している部分から生検が施行された．

2. 論 文

- 1) 過去十年間の青森県立中央病院における切除腭腫瘍の臨床病理学的検討 第六報： β -catenin 遺伝子点突然変異を認めた solid pseudopapillary tumor の一例.

真里谷 靖，貝森 光大，矢嶋 信久，八木橋 操六，檜山 美佐江，
瀬川 恵，三上 泰徳，畑山 一郎，三上稔之，石川 和子，
黒滝 日出一

青森県立中央病院医誌 2007; 52: 115-118.

- 2) リンパ節の細胞診 第1報 捺印法（タッチ）と擦過法（サッカ）の比較.

吉岡 治彦，長谷川 多紀子，齋藤 昌彦，福田 宏志，八木橋 法登，
黒滝 日出一

日本臨床細胞学会青森県支部会報 2007; 24: 10-18.

- 3) リンパ節の細胞診 第2報 RLH (reactive lymphoid hyperplasia)の2例.

吉岡 治彦，長谷川 多紀子，齋藤 昌彦，福田 宏志，八木橋 法登，
黒滝 日出一

日本臨床細胞学会青森県支部会報 2007; 24: 19-28.